

## 高温傾向が続く?! 根の活力を維持する水管理と、病害虫防除対策を最優先!!

新・米づくりやまがた日本一運動置賜地域本部

7月27日に発表された高温に関する異常天候早期警戒情報によると、「8月1日頃からの約1週間はかなりの高温」になると予想されています。  
高温が今後も続くと見込まれる中、水管理を怠ると、特に根の活力し稔りを悪くしますので、活力維持に向けた間断かんがい等の水管理が重要となります。  
また、害虫等の発生が多くなると見込まれますので、防除対策を確実に行いましょう!!  
大豆においては、干ばつによる「落花・落莢」が懸念されるので、畦間かん水による「着莢率の向上、粒肥大」を図りましょう!

【東北地方 1か月予報】7月23日～8月23日  
◇天気は数日で変化。 ◇期間の前半は気温が高い～かなり高い見込み。  
<気温の予報>  
7/24～7/30: 高い 7/31～8/ 6: 平年並～高い 8/ 7～8/20: 平年並

### 高温年次における収量・品質・食味確保の決め手は、水管理!



#### ～ 幼穂形成期から穂揃期の水管理は、とても重要です ～

- ◇ 穂の分化・発育から、出穂・受精・開花は、稲の一生で最も大きな変化が起こるとともに、水分や酸素を最も多く必要とします。
- ◇ 出穂までは、間断かんがい・湛水管理を行い、登熟の向上・品質向上に結び付けましょう。
- ◇ 受精・開花期は生理的に活発な時期。また、穂揃期頃は、登熟期間の中で、最も盛んに光合成が行われる時期。この時期は、湛水管理を実施すること。

### 今年はカメムシが多い?!



#### ～ 基本防除は、時期を逃さないように注意しましょう ～

- ◇ **今年の出穂は、平年に比べ早まる予想。**防除時期を逃さないことが肝心。
- ◇ この時期以降の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を促すため、草刈り後に速やかに薬剤防除を実施するか、水田の薬剤散布計画に合わせて実施すること。
- ◇ アカヒゲホトリスカメは飛行して広範囲に移動するため、広域で一斉に防除を行うと効果アップ。
- ◇ 農薬使用による「みつばち」への危害を防ぐために、次の点に留意。  
①近隣での「みつばち飼育の有無」を確認  
②みつばちの飼育者に「農薬散布の情報(場所や日時, 農薬の種類)」を提供

### イネアオムシにも注意が必要



#### ～ 例年発生しているほ場は要注意です ～

- ◇ イネアオムシ(フタオビコヤガの幼虫)の発生を一部ほ場で確認。例年、発生が確認されるほ場では今後多発生が心配されるため、ほ場を見回り、若齢幼虫の時期に防除!

**栽培履歴の記帳はトレーサビリティの第一歩! 今は「安心」なくして、おコメも売れません!!**

**農薬の使用に際しては、使用基準を再確認し正しく使いましょう…!**

農薬情報は山形県が運営する農業情報サイト『やまがたアグリネット(愛称:あぐりん)』

<http://agrin.jp/>を参照ください。



## 大豆の生育状況は・・・？



### ～ 現在、大豆は開花中 ～

◇ 大豆の開花は、7月23日頃から始まっています。

表 播種日・品種別開花期

品種	播種日	開花期
エンレイ	6月2日	7月23日
	6月8日	7月25日
	6月11日	7月27日
タチユタカ	6月2日	7月25日
里のほほえみ	6月11日	7月27日

◇ 梅雨明け7月18日(平年より5日早い)後、気温は平年より3度高くなっている。今後1週間も気温は高い予想。

◇ 7月18日以降、1mmを超える雨の降った日がありません！！

### 今年は畦間かん水を行いましょう！



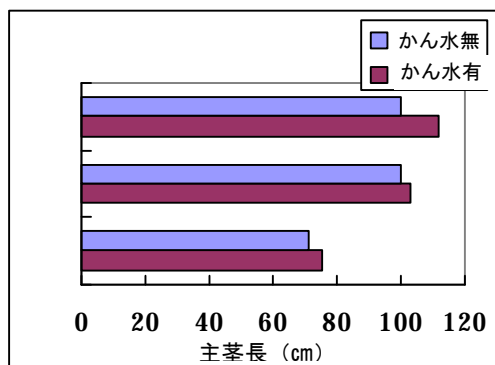
### ～ ほ場が乾燥し、大豆の葉が裏返っています！ ～

◇ 大豆は要水量が大きく、特に**開花期以降は水稻の2倍の水を必要**とします。土壌水分が不足しすぎると、水分の吸収とともに養分の吸収も阻害され、根粒菌による窒素固定量の低下、光合成能力の低下等により収量が低下します。

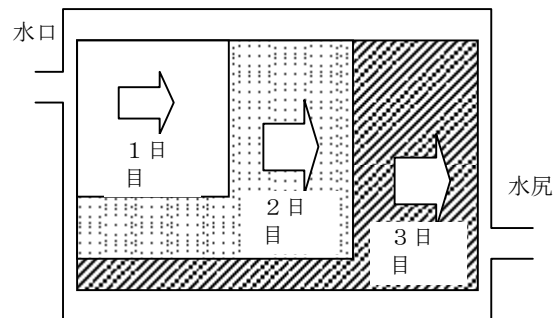
このため、乾燥が続く場合には**開花期から登熟初期にかけて2～3回畦間かん水を実施**し着莢率の向上や粒の肥大を図ることが重要です。

#### 【畦間かん水とは？】

- ◇ 30a規模のほ場では、水口付近の過度のかん水をさけるため、3日間に分けて徐々に灌水します。
- ◇ かん水時期は開花期から約2週間。
- ◇ かん水を要する条件
  - ・ 土表面が白乾亀裂の状態。
  - ・ 開花期10日前頃より長期間降雨の見込みがない場合。



<かん水方法>



### そばは適期播種が重要！



### ～ いかに適期に播種できるかが、収量向上の秘訣！ ～

◇ 昨年は、8月上旬まで雨が続き、適期に播種が出来ず、収量は平年より少なくなりました。適期内に遅れずに播種しましょう！！

は種期：7月下旬から8月上旬(8月10日までに終了すること)

は種量：ドリル播き 5～6kg/10a(「でわかおり」6～7kg/10a)

散播 7～8kg/10a(「でわかおり」8～10kg/10a)

施肥量(成分量)：窒素2～4kg/10a、りん酸及びカリは6～9kg/10a